

会 議 録

会議の名称		第 1 8 回守谷市地域公共交通活性化協議会		
開催日時		平成 2 7 年 2 月 1 7 日 (火) 開会：午前 1 0 時 閉会：午前 1 1 時 4 0 分		
開催場所		守谷市役所 大会議室		
事務局 (担当課)		企 画 課		
出席者	委 員	又未会長，会田委員，倉田委員，鈴木委員，佐々木委員，飯田委員，武藤委員 (代理：青木 関東鉄道職員)，片山委員，田中正利，笠川委員，石橋委員 計 1 1 名		
	その他			
	事務局	緑川企画課長，高橋企画員，秋山主事		
公開・非公開の状況		☐ 公開 ☐ 非公開 ☒ 一部公開	傍聴者数	0 人
公開不可の場合 はその理由				
会 議 次 第		1 開 会 2 会長挨拶 3 内 容 議事 第 1 号議案：モコバス「いこいの郷・板戸井ルート (Aルート)」 左回りの時刻一部変更について 報告 報告第 1 号：モコバスの利用状況について 報告第 2 号：中央公民館入口バス停の廃止について 報告第 3 号：もりやバスブックの作成について 報告第 4 号：アンケート調査結果について 4 その他 5 閉 会		
確 定 年 月 日		会 議 録 署 名		
平成 2 7 年 3 月 3 日		会 長 又 未 成 人		

審 議 経 過

1 開 会

2 会長挨拶

○会長挨拶

守谷市の人口は順調に増加しています。子育て世代の多い、活気ある街となっておりますので、そのような中でより利便性の高い公共交通のあり方を考え、住みよいまちづくりを推進することは重要なことと思われまます。本日も活発な議論をお願いします。

○田中正利新任委員の紹介と挨拶

3 内 容

会長の進行により、議事を進める。

●議案

第1号議案：モコバス「いこいの郷・板戸井ルート（Aルート）」左回りの時刻一部変更について

【事務局から説明】

○主な意見、質問・・・特になし

○採決・・・全員賛成 承認

●報告

報告第1号：モコバスの利用状況について

【事務局から説明】

○主な意見・質問

委 員： 1便当たりの利用率を、もう少し上げる方法はないのでしょうか。やはり、運行費用と収入を見たときに、1便当たりの利用率が低いと思います。今の運行方法等を変えることによって、利用率を上げていかないと、いつ

まで経っても赤字のままになると思いますが、いかがでしょうか。

事務局： 現状では、バスの利用率は伸びています。啓発事業や高齢者定期券、キッズバス等を実施しておりますが、皆様からも是非アイデアをいただきたいです。モコバスの利用率が更に伸びるような御案をいただければ、来年度事業の中で実施していきたいと考えます。

委員： 様々な地域で、この様なコミュニティバスの利用率を上げる工夫をされていると思います。参考になる事例はないのでしょうか。

事務局： 現時点で、コストを掛けずに大きく利用率を上げることができる方策は、見付かっていません。アイデアをいただければと思います。

委員： アイデアがないとおっしゃいますが、他市町村の事例等の調査をしましたか。

事務局： 随時県内の市町村につきましては、情報交換をしております。視察等の資料も参考にしています。例えば、長野県への視察資料を参考にしたり、日立市に状況の聞き取りをしたりしています。

委員： もっと積極的に様々な事例を調べていただきたいです。様々な事例を調べることによって工夫は出てきます。待ちの姿勢でやっている限り、新しいものは出てこないと思います。

会長： 今、貴重な御意見をいただきました。

運行費用と収入、利用者数の兼ね合いは難しいと思います。例えば、現在200円の料金を50円、100円と値上げした場合、どのような利用率になるか分かりません。様々な視点で工夫が必要です。

報告第2号：中央公民館入口バス停の廃止について

【事務局から説明】

○主な意見・質問・・・なし

報告第3号：もりやバスブックの作成について

【事務局から説明】

○主な意見・質問・・・なし

報告第4号：アンケート調査結果について

【事務局から説明】

○注意事項

このようなアンケートの形式は、本年度から始まりました。例年、同じテーマのアンケートは行っておりましたが、問題の形式が異なるため、通年比較ができないことは、御了承ください。

○主な意見・質問

委員： アンケートの結果を見させていただきました。有効回答は1, 150名であり、内容を把握するには、問題ない回答率だと思います。ただ一つ残念であるのは、モコバスを利用している方の割合が少ないということです。

また、最終的にはモコバスや公共交通機関をどのようにしていくかということに、このアンケートを役立てるべきです。本年度からスタートしたアンケートということで、早急に成果へつなげるのは難しいでしょうが、現時点で、このアンケートをモコバスの増加にいかそうとする場合、事務局はどのようにお考えでしょうか。

事務局： 現在、駅にアクセスするのに自動車を使うという方が非常に多い状況にあります。今年度策定した低炭素まちづくり計画に基づき、このような状況を改善するために、公共交通の充実や利用率の増加を進めていこうと考えております。

目先の1, 2年でという短期的なものではなく、中長期的に見て対応していく方向になると思っております。

委員： このようなアンケートは、どこの市町村でも行っています。アンケートの答えは、「安くしてください。」、「増便してください。」、「時間をもっと広げてください。」というようなものが必ず多く出ます。費用対効果を考えると、これらの答えを実現できないのが現実です。

しかし、そのとおりやっただとしても、この答えを書いた方々が乗るかという点、また別問題になります。非常に難しいです。実際に乗客を増加させるために、アンケートは一つの指標となりますが、現実には非常に難しいという点を覚えておいていただきたいと思います。

もう1点申し上げます。費用対効果という考え方を無視することはでき

ません。お金が湯水のようにあれば、いくらでも増便することができ、バス停も増やせます。しかし、コミュニティバスの運行は、限られた予算の中で運営していかななくてはいけないことを覚えておいてください。以上です。

会 長： ありがとうございます。今、大変貴重な御意見をいただいたと思います。乗車料金を安くしても、乗車人数が大きく増えるとは限りません。また、これ以上乗車料金を安くすることは、運営も厳しくなります。これら全てのことを考慮して、費用対効果を上げるということが大切になります。

委 員： 今、お伺いした御意見、私もそのとおりだと思います。アンケートを行っているのであれば、そのいかし方を考えてください。

例えば、アンケート結果の１０頁に、自動車は使っていても自分が運転するのではなく、家族が送迎するという方が多くいらっしゃるという結果があります。これから高齢化社会が進むと、このような方々の割合が多くなると思います。特にその中で、通学のために家族が運転している方々もいます。お子様は当然運転ができませんから、今後もこのような方はいらっしゃるでしょう。

買物や通院については、高齢者の方が多いと思います。この方々は今後一層増加するでしょう。しかし、この方々の中でモコバスを利用している方の割合は非常に低いです。多分、この方々の交通手段をモコバスにシフトさせるのは難しいと思います。

そうすると、今後増えていくと思われる買物と通院をする方々の足を、家族に送迎してもらわずに、どうすれば良いのでしょうか。モコバスではなく、アンケートのほかの選択肢である福祉タクシーや福祉送迎が必要になってくると思います。このように、今後の計画を積極的に考えていただきたいです。

委 員： コストを掛けなくてもまだ改善できる部分があります。先程も、つくばエクスプレスとの接続の見直しの案件がありました。例えば、待ち時間が１０分以上ある接続はあまり乗らないと思います。大きな時刻の改正はできないと思いますが、微修正の範囲内で接続をもっと良くすることはできると思います。

それから、高齢者の方に時刻表をダウンロードしていただくということも難しいことです。もう少し高齢者に易しい時刻表の見せ方を工夫した方が、利用率も上がると思います。

バス停の待合環境が良くないという意見も多いです。寒い中待つというのではなく、例えば店の前でバスを待てるようにすることができれば良いと思います。あるいは病院とか買物先とか、そういう所でバスを待てるよ

うな仕組みを考えても良いと思います。

●その他

・高齢者運転免許自主返納支援事業について

【事務局説明】

高齢者が運転免許を自主返納された場合、公共交通を利用いただけるよう、きっかけ作りとして路線バスまたはモコバスの回数券を2万円分交付しています。このような支援事業を行っているのは、茨城県内でも約10自治体ほどで、先進的な事例と言えます。

しかしながら、実施している自治体の交付金額を調べますと、だいたい1万円前後のようで、守谷市は大変手厚くなっております。報告第1号でもお伝えしましたように、昨年度を大きく上回る自主返納者の申請がありました。公共交通を利用させていただききっかけ作りとしては良い試みなのですが、来年度以降も継続して申請者が2倍、3倍と増え続けていくことが予想されます。

限られた予算の中で、より多くの方々に申請していただくため、次年度以降の交付金額について御意見をいただきたく、その点をお話しさせていただきました。

○主な意見・質問

事務局： 現在、守谷市では2万円分の回数券を交付していますが、金額を下げることに御意見がありましたら、伺いたいです。

会 長： 御意見はありますか。運転免許自主返納支援事業の申請者は間違いなく増えると思います。

委 員： 高齢者の公共交通利用のきっかけ作りとして2万円は少し多いと思います。1万円くらいで良いと思います。

委 員： 高齢者の交通事故は増えています。市民の立場としては、もう少し2万円という交付金額を維持していただきたいです。1、2年この金額を維持して、「この期間を過ぎたら減額されてしまうから早く返納しよう。」という意識を市民に持たせるのも良いと思います。

アンケートにはポイント制の導入について意見がありましたが、これは良いと思います。バスに乗るとポイントも溜まり、買い物も安くできるとか、そのような特典が良いです。

委 員： 2万円の交付金額については、減額までの猶予を置いてPRしていただいて、PRを実施した次年度から金額が下がってしまうという焦りを持た

せるのが良いと思います。その方が免許の返納率は上がるのではないかと
いう気がします。

私の父親の事例ですが、昔の気分のままで、車の運転をすぐには辞めら
れないということもあると思います。P Rの一環として猶予期間を置いて、
返納のきっかけを持たせるのが良いと思います。

委 員： 回数券に有効期限はありますか。

事務局： モコバス、路線バスとも回数券に有効期限はありません。

委 員： 守谷高校に行くモコバスは多くの高校生が乗っています。高校までは、
路線バスが走っても良いのではないのでしょうか。モコバスも実証実験の期
間があったと思います。そのときに、採算の合う所は路線バスを走らせる
というのが本来の目的のような感じがします。

もう少しモコバスの利用率を上げたら、民間の路線バスに走っていただ
く方向に持っていくのが良いと思います。

会 長： ほかに何かありますか。皆様に沢山の御審議をいただき、本日の会議は
これで終了したいと思います。ありがとうございました。

事務局： 長時間に渡り、ありがとうございました。

以上